

令和4年度

東京の水産業振興に向けた専門懇談会

(第2回)

議事録

令和4年11月11日(金)

都庁第一本庁舎21階 海区漁業調整委員会室

## 東京の水産業振興に向けた専門懇談会（第2回）議事録

日時：令和4年11月11日（金曜日） 14時30分～16時00分

場所：第一本庁舎21階 海区漁業調整委員会室

小口課長代理	<p>〈開 会〉</p> <p>それでは、定刻となりましたので、只今から東京の水産業振興に向けた専門懇談会第2回を開催させていただきます。</p> <p>事務局の小口です。議事に入りますまでの間、進行を務めさせていただきます。</p> <p>本日の委員の皆様の出席状況でございますが、委員5名の内、関座長がWEBで正面のモニターにいらっしゃいます。</p> <p>その他の4名の方々は対面での、全員のご参加をいただいております。</p> <p>なお、本日の懇談会はインターネットでの同時中継を行います。</p> <p>また、議事録は後々公開をされますので、ご了承ください。</p> <p>それでは議事に入ります。</p> <p>WEB出席でやりにくいかもしれませんが、関座長どうぞよろしくお願いたします。</p>
座 長 (関委員)	<p>皆さんこんにちは。座長の関です。</p> <p>箱の中からすみませんという感じですが、都合でわたくしのみWEBで参加ということになりまして、皆様にご迷惑をおかけするかと思っておりますが、よろしくお願いたします。</p> <p>本日は、会議が滞りなく進みますように、重ねてご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、これより議題の懇談会でのご意見を踏まえた今後の施策の展開について、ということで進めてまいりたいと思います。</p> <p>最初に資料の説明を、藤井水産課長よりお願いたします。</p>
藤井課長	<p>はい、水産課長の藤井です。</p> <p>どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、モニターに表示しております資料をご覧ください。</p> <p>これから説明する資料でございますけれども、第一回の懇談会、8月23日に開催されましたが、この中で、DX分野、環境保全分野、人材育成分野、ブランド化の分野のご提言をいただいたものを取りまとめいたしますとともに、これらに対する、現段階での都の施策の方向性の案をお示ししてござい</p>

ます。

本日は、こちらの内容について、ご確認いただきますとともに、具体的事業を進めるにあたりまして、ご助言ご提言などを改めていただければと思います。

また、本日の第二回の会議でのご提言を参考といたしまして、これから来年2月を目途に、都として1年ないしは3年程度の取組としてまとめていきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、資料に基づきましてご説明を進めてまいりたいと思います。

ご説明は4分野一括してまず私の方で説明をいたしますので、そのうち個別のご質問などいただけると幸いです。

それでは、最初に資料1ページ目、水産専門懇談会を踏まえた施策展開の方向性（DX分野）からご説明をしていきたいと思います。

こちらの左側が第一回にいただきましたご意見、右側がそれを踏まえました都の考え方をまとめたものでございます。

右側につきましては、現在の取組の着実な推進、それから速やかに施策に反映、中長期的に検討と3段階に分けて各分野について都の考え等をお示ししております。

それでは、まずご意見の方から、かいつまんでご説明をしていきたいと思っております。

まず、漁業のDXの推進についてでございますが、こちらにつきましては、まず漁業者が不可欠と思えるようなシステムを作っていくことが重要であるといったようなご意見をいただいております。

また漁業者に寄り添ったシステムの開発が不可欠であるとか、また作ってお終いということでは無く、絶えずシステムを進化させていきながらより漁業者に使い勝手のいいもの、使っていただけるものにしていくべきだといったご意見をいただいております。

また、漁海況予測システム、現在東京都で運用を進めているものでございますが、こちらにつきましては海況、それから漁業者の経験や勘などを合わせていけば、海況だけではなくて漁場の予測などにも有効ではないかといったようなご意見をいただきました。

一方で、あくまで予測のシステムということで、システムの精度向上といった意味からは、引き続き海洋観測等の実測なども重要であるといったご意見も頂戴しております。

また、海況の予測と操業の情報を合わせることで、漁場予測などもできるといったような可能性についてご示唆いただいております。

それから、3点目の陸上養殖についてでございます。東京には、多摩地域と島しょ地域がございますけれども、いただいたご意見の中では、特に東京の多摩地域、これは非常に消費市場と近いということで、そういった地理的な優位性を活かして、陸上養殖の可能性があるのではないかとといったようなご意見をいただいております。

また、水産資源としてだけではなくて、観光資源としての有効活用なども考えられるのではないかとといったようなご意見をいただきました。

一方、課題といたしましては、コスト面であるとか、CO2 排出などの問題についてもご指摘があったところでございます。

これらを踏まえまして、都の考え方でございますが、まず現在の取組の着実な推進ということで、漁業の DX の推進につきましては、現在都の方でも今年度から取り組みを進めておりますが、漁協の荷捌き作業の省力化ということで、いわゆる力作業の省力化というだけではなく、伝票への入力作業であるとか、漁獲物を計量した数値の電子化なども含まれますが、こういったところも現在検討しております、これらの取り組みを引き続きしっかりと進めていければと考えております。

次の漁海況予測システムについてですが、こちらも本年度から運用が始まっておりますが、これからしっかりと普及定着させていくということと合わせまして、いろいろと漁業者の皆様からもアンケートなどをとりながら、改善を加えていき、使い勝手を考えながら、バージョンアップを図っていければと考えるところでございます。

続いて速やかに背策に反映という部分についてでございますけれども、漁業の DX の推進については、まず漁船を活用した操業情報のデータ収集の仕組みの構築、これは資源管理を進めていくうえでも重要と考えておりますので、こういったものを都として導入できないかと考えております。

また、都内には、サケ・マス類を中心とした内水面の養殖業も行われており、こういった内水面養殖業へのデジタル技術の導入についても検討を進めていければと考えております。まだ検討段階ではございますけれども、飼育環境のコントロールであったり、AI を導入した自動給餌、こういったことが考えられるかと思っておりますので、こういう部分での DX の推進を検討してまいればと考えております。

次に、中長期的に検討という箇所でございますけれども、DX の推進については、先ほども申し上げた項目の他、漁協の事務であるとか、漁業操業の作業の効率化に向けた支援の検討、導入の検討、こういったことを検討して

いければと思っております。

また、陸上養殖についてでございますけれども、まず費用対効果等の面から実現性について、調査・検討していくことが重要と考えております。また、こちらの費用対効果だけではなくて、地域の雇用面であるとか、特産品の安定供給、そういった観点も視野に入れながら、東京都内での可能性について検討進めてまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、1ページおめくりをいただきまして、環境保全分野についてでございます。

まずご意見の項目でございますけれども、資源管理を推進するために必要な施策について、こちら様々なご意見をいただいております。

資源管理には、漁業者すべての取組、すべての皆さんに参画をしていただくことが不可欠であると、また国では TAC 管理が検討されているところでございますが、しっかりと漁業者のコンセンサスづくりが必要であるというご意見。また、TAC 管理等の導入に当たりまして、漁獲の削減といったようなことも想定されますが、特に都の主要魚種でありますキンメダイについて、昨今も資源評価が出されたところですが、それほど大幅な漁獲削減といったような内容になっていない現在が、TAC 移行へのチャンスじゃないかといったご意見をいただいております。また当然に TAC を導入するにあたっては、漁業経営への影響もしっかりと考慮したうえで、必要に応じて影響の緩和措置をしていく必要があると、こういったご意見をいただいております。また TAC 管理の導入に当たりまして、導入に先立ちまして、自由漁業であるような漁業種類については許可漁業化などが前提になっているというご意見もございました。また当然に TAC 管理、資源管理を進めていくうえで、資源評価といったことが重要になってまいりますけれども、こちらに向けて必要な組織、予算、定数、こういったものがやはり東京都として求められるといったご意見をいただいております。当然これにはしっかりと取組の効率化、作業効率の効率化等配慮したうえでということになりますが、しっかりと、取り組みを進めるにあたっての受け皿が必要であるといったようなご意見も頂戴いたしました。また先ほどの DX のところとも被る部分がございますが、漁業者の操業情報が資源評価を行っていくうえで、TAC の導入、推進に当たっては必要になってくるという、ご意見をいただいております。

続いて、栽培漁業についてでございます。こちらにつきましましては、非常に今、海洋環境が大きく変動している中でございまして、環境要因などが今後の栽培漁業のあり方にも相当影響を与えていると、いったようなご意見を頂戴しております。そういった中で、地場の取り組みを漫然と続けて行くこと

ではなく、環境変動要因などもしっかりととらえながら、従来の取り組みの評価検証を行いまして、今後の在り方の検討をしていく必要があるといったようなご意見をいただきました。また栽培漁業ということで、基本的には自然の力にゆだねて生産性を高めていくということですが、栽培漁業センター等で生産された資源につきましては、海に放流するだけではなく、例えば養殖、先ほど来検討のあります、陸上養殖への共有なども新たな可能性として検討していくべきではないか、といったようなご意見も頂戴いたしました。

次に洋上風力発電についてですけれども、こちらにつきましては、電力の発電ということだけではなく、海上に作る基盤が漁場造成の効果もあり、そういったことが漁業者の経営の安定につながるかといったようなご意見を頂戴しております。また漁場として有効になるという中では、遊漁などの資源としての活用も考えられますけれども、逆に漁業者と遊漁者のトラブルということも考えられますので、しっかりと地元優先のルールなどを作って進めていってはどうかといったようなご意見も頂戴いたしました。

最後にブルーカーボンについてでございますけれども、こちらについては、カーボンのクレジット化などいろいろと取組が進められているところでございますけれども、こういったものを漁業者の副収入として活用することで、漁業者の経営の安定につながる可能性があるのではないかとといったような事例、優良事例を東京でも作れないかといったようなご意見も頂戴いたしました。

こういったご意見に対しまして、現在の取り組みの着実な推進項目といたしましては、栽培漁業の推進といたしまして、現在、都では、栽培漁業センターの機能強化に向けまして、基本構想を整備しているところでございます。本年度中に今後の栽培漁業の在り方や、栽培漁業センターの機能強化についての基本構想等を作成する予定でございますので、この中で、今後の整備の方向性などをしっかりと検討、決定してまいりたいと考えております。

続いて、速やかに施策に反映の項目でございますが、資源管理の推進といたしまして、資源評価あるいは調査研究を行います島しょ農林水産総合センターの体制の強化といった項目を上げました。

また、再掲となりますけれども漁船からの操業情報データの収集の仕組みの構築なども検討して参りたいと思っております。

漁業経営への影響緩和につきましては、施策を検討してまいりたいと考えております。

それから都の最重要魚種であるキンメダイの資源管理についてでございますが、TAC 化もある程度視野に入れた中で当然許可制の導入などについて、しっかりと検討していくということで、成果の導入などにつきまして、国側にもしっかりと要望してまいりたいと考えているところであります。

続いてブルーカーボンについてですけれども、非常に、伊豆諸島、特に南部を中心に磯焼けなども進んでいる状況でありますけれども、海藻の増殖手法の調査検討なども、新たに進めてまいりたいと考えております。

中長期的に検討の項目でございますが、ブルカーボンといたしましては、気候変動に対応した藻場造成等の方策の調査、検討を進めてまいります。またカーボンのクレジット化に関する情報収集なども合わせて進めてまいりたいと考えているところでございます。

それから、洋上風力発電につきましては、引き続き水産業への活用方法等の検討を進めてまいりたいと思います。具体的には大島で、調査検討が進められておりました、東京都もそのメンバーの中に入っておりますので、こういった中で水産の立場からの意見なりをお伝えできればと考えているところでございます。

またページをおめくりいただきまして、人材育成分野に入っております。

まずご意見ですが、担い手の育成についてでございます。いろいろと体験漁業などの機会等ございますけれども、就業してすぐやめられていく方も多いという中で、事前に体験漁業などをしっかりとやっていくことで、ミスマッチ、アンマッチを避けられるのではないかとのご意見を頂戴いたしました。

また多く人を呼び込むにあたっては、情報発信の必要性、メディアの活用の重要性などのご提言をいただいているところでございます。

また特に島しょ地域ということで考えますと、住む場所ということも非常に重要な要素となっております。移住定住の施策についても合わせて検討が必要ではないかといったようなご意見もいただいているところでございます。

また、本年度から東京都の方で担い手の方の受け入れであるとか育成に取り組む専門の組織であります東京フィッシャーズナビ、こちらを立ち上げたところでもありますけれども、取り組みを外部に対してしっかりと認知度を高めていくということが必要だといったようなご意見も頂戴いたしました。

また当然に、漁業者の定着率の向上には所得の向上が重要な条件であるといったようなご意見も頂戴をしております。資源管理の強化が求められてい

の中で、いかに価値をつけて所得を確保していくか、こういったところが重要であるのご意見をいただいております。

また担い手の育成につきましては、当然に行政だけではなくて、民間の力も活用したサポートの仕組み作りが必要であるといったようなご意見も頂戴をしております。

続いて女性の参画についてでございます。女性が社会的に認められた仕事があるということが重要であるということで、まさにその通りだと思います。

また、人材を育成するにあたりましては、地域だけではなくて、地域外との交流などによりまして、しっかりとネットワークを構築することが重要であるといったようなご意見も頂戴いたしました。

それから加工品、特産品などについてでございます。こちらにつきましては、新たに加工品を、特産品を開発するというだけでなく、今ある例えばクサヤなどということが例として出されていたかと思いますが、こういった特産品に新たな価値をつけて現代風へのアレンジを行っていくであるとか、また水産分野だけではなくて、農業や工芸品とのコラボレーション、こういったものも大切であるというご意見を頂戴いたしました。

また加工の取り組みは、いろいろと地域で取り組まれているところでございますけれども、継続的な取組、持続的な取り組みとしていく上では、ただ女性の支援ということではなくて、参加者の覚悟といいますか自覚というのが重要であるといったようなご指摘もいただいているところでございます。

これを踏まえまして今後の方向性でございますけれども、現在の取り組みの着実な推進の項目といたしまして、まず担い手の育成についてでございますけれども、東京漁業就業支援センター（東京フィッシャーズナビ）の運営をしっかりと進めてまいりたいと思っております。

また地域と連携した担い手の育成体制、こちらもしっかりとした体制を、特に島しょ地域におきまして、地元町村、漁協、漁業者あるいはそれ以外の方々との連携も図りながら、地域として担い手を育てていく、受け入れていく、こういった体制を作っていきたいと考えております。

また新規就業者の方の短期研修、長期研修こういったものの内容を充実させながらしっかりと取組を進めていきたいと考えているところであります。

あわせて、島しょの漁業であるとか、東京水産業についてしっかりとPRなどを図っていくということで、様々な媒体を通じまして、情報の発信力強化に務めていくということを行ってまいりたいと思っております。



定住移住に関しましては、これなかなか水産分野だけでは対策が難しいところもございますので、特に地元自治体の関連部署と連携をいたしまして、移住定住対策について水産の分野としてもしっかりと進めていけるように検討してまいりたいと思っております。

続いて、女性の参画についてでございますが、こちらにつきましては現在でも青年部、女性部などの活動の経費の助成を行っております。引き続きこういった取り組みに対して、推進をしていくとともに、先ほどもご提言もありました他地域との交流などについてもしっかりとサポートしていければと思っているところであります。

特産品加工品の加工開発につきましては、現在、新商品の開発、量産体制の整備に関する助成なども行っておりますので、この中でしっかりと対応してまいりたいと考えているところであります。

続いて、速やかに施策に反映の箇所でございますが、担い手の育成については、効果的な PR 方法について、しっかりと検討していく必要があると考えております。言葉でこのようにまとめるのは簡単ですが、実際にこの効果的な PR というのは非常に難しいと考えております。こういった分野につきましては、長谷川委員なども含めまして、ぜひご助言いただきたいと思えますし、また今後の事業の実施に当たってはいろいろとご意見などいただきたいと思っております。

また女性の参画につきましても、今後集合研修なども含めて、いろいろとメニューのバージョンアップなども図ってまいりたいと考えているところであります。

中長期的に検討というところでございますが、担い手の育成につきましては、漁業者を中心とした外部の方も交えたチーム作りであるとか、所得の向上対策、こういったところをしっかりと中長期的に検討していく必要があると考えているところでございます。

最後、1 ページをおめぐりいただきまして、4 項目目のブランド化分野についてでございます。

頂戴いたしましたご意見といたしましては、魚価の向上についてということで、今後水産資源の減少あるいはしっかりと管理を進めていくという中で、いかに貴重な水産資源を差別化していくかが非常に重要になってくるといったようなご意見。

また日本の水産技術あるいは食文化、こういったものは世界一ということで、こういった技術をもって魚を扱うことによりまして、魚価がしっかりと上がっていくことは間違いないだろうというようなご意見もいただきました。

また東京は非常に大きな都市でございますので、流通・情報発信を支えている一流の人材が東京にはいるということで、こういった様々な分野の方々と連携をした良い魚を作っていくという活動が必要ではないかといったようなご意見をいただきました。

また、水産物を扱うにあたっては鮮魚だけではなくて冷凍品などの活用、あるいは加工品の活用・開発こういったことも魚価の向上について課題解決の一つになるのではないかとといったようなご意見も頂戴をいたしました。

また現在、都では、輸出促進なども検討しているところでありますけれども、あくまで輸出というのは国内流通の延長線でありまして、しっかりと国内で評価・認められる魚を作ることが海外流通を進めていく上での基礎となると思いますか重要であるといったようなご意見をいただきました。

こういったところを含めまして、様々なプレイヤーやと目標を共有して取り組みを進めていくことが重要であるといったようなご意見を頂戴をしております。

これを踏まえまして、今後の取り組みの方向性でございますが、現在の取り組みの着実な推進という項目といたしまして、東京産水産物の PR 活動それから海外販路開拓の取組、鮮度保持技術の向上なども含みますけれども、こういった取り組みをしっかりと進めていきたいと考えているところでございます。

また再掲となりますけれども、新商品開発、量販体制の整備に関する経費助成なども引き続き進めてまいりたいと考えているところでございます。

また速やかに施策に反映する項目といたしまして、小売事業者と生産者とのマッチングの場といいますか意見交換会のような場といたしまして、商談会なども開催できないかということを検討しているところでございます。

また東京産水産物の評価を高めていくという上で、鮮度保持技術の講習会の実施などもしっかりと進めていくことが必要と考えております。

最後、中長期的に検討の項目でございますが、この中では冷凍品の活用であるとか、一次加工品の加工の実施等の取り扱い形態の検討など、また、さまざまな人的つながりを作るための活動なども検討していくと考えているところでございます。

以上4点、4分野について、頂いたご意見に対するとの考え方を案として

	<p>お示しをいたしました、4分野共通する項目といたしまして、取り組みの視点といたしましては、それぞれバラバラに取り組みを進めるのではなく、各分野連携をさせて実施することが有効であると、また特に流通の分野では、川下いわゆる生産者のみではなくて、消費者も巻き込みながらですね一気通貫の施策展開が重要であるといったような視点を頂戴いたしております。</p> <p>こういった視点も今後の取り組みの中に活かしながら、これからの取り組みを進めていきたいと考えております。</p> <p>少し長くなりましたが、以上第一回のご意見を踏まえた東京都の施策展開の方向性についてご説明申し上げます。</p>
座長	<p>はい、説明ありがとうございました。</p> <p>以上で、事務局からの資料の説明は終わりました。この検討会で出した意見を整理してまとめていただいたわけですが、何か委員の皆様ご意見、ご質問、それから加えての提案でも構わないと思います。自由に、どんどん手を挙げて発言をお願いしたいと思います。</p>
江口委員	<p>よろしいでしょうか、私の流通ブランディング分野ということで、お話をさせていたきたいと思っております。</p> <p>本当に非常に申し上げたいことを申し上げた中、よくまとめていただいて本当にありがとうございます。</p> <p>重ね重ね申し上げますけれども、私としては生産者、川上は、マーケット、川下を知って生産を行う時代だということと、天然魚は良い魚、売れる魚を作ることが大事であり、それが可能であるという二つをテーマとしてお話させていただいているところです。</p> <p>特段ですね、ここの記載事項に対して何かというよりかはですね、その書かれていることに対しての思いと申しましょうか、主旨的なこととか改めて簡単にお話させていただければと思います。</p> <p>PRとか、販路開拓や商談会などの商談については、やはり主催する行政の方などがPR、どういう風に売れるのかを考えるわけではなく、生産事業者さんが、誰に、どういった層に、どういった商品として売りたいか、売り込みたいかというのが、やはり大事です。それにあったPRとか、商談、商談相手、商流を作っていくのが大事ではないかなと思います。そういう中で、別に東京都さんがと申し上げるわけではないのですが、最近全国各地自治体さんとかが、いろいろなPR活動をされていらっしゃる、それは素晴らしいことだと思うのですが、ただ一方でPRしてどう売りたいのかが結局は大事であって、それは、やはり主体的に生産者さんが、作り上げていくものではないかと思っています。PRで美味しいですよってというのは当たり前</p>

	<p>の話で、宣伝して知ってもらえればとなるのですが、短期的には上手くいったとしても、必ずしも宣伝して知ってもらえれば売れるわけではないという現状が、水産流通の世界にはあるのではないかと考えています。</p> <p>良い例が、豊洲市場での明石ダイです。明石ダイは美味しいですよ素晴らしいですよって PR したわけではなく、きちっと産地の方々が一体となって、やるべき取り組み、良い魚を作るっていう活動を行ったことによって、評価が上がってきたという経緯があります。</p> <p>最近だと、気象変動でブリがどんどん北上していく中、今年興味深かったのが、羅臼のブリが異様によくてもものすごい人気で、しかも扱いも良いらしく、寝かしても2週間ぐらい平気で綺麗に熟成していくようなお魚づくりを産地の方はしています。そういう話が、別に宣伝していた訳ではなく、ただ豊洲とか飲食の方の間では、これ良いねってというのが広がっていったということです。やはり豊洲市場、築地市場の歴史を見ても、豊洲は美味しいですよ、築地は素晴らしいよって言ったわけではなく、一つ一つ生産者なり、流通の方々の信用の積み重ね、評価の積み重ねがされることによって、作為的でない、不作為のブランディングで、こういう評価につながっているという部分があります。そういう意味では、一気通貫でという話が施策としてありましたけれども、今後の進め方としては、生産者はなかなか動きづらいつかいろいろと苦労はあるのだと、承知しておりますけれども、やはり生産者さんと一体となってサポートする立場の方々が、上手く導いて、目標目的というものを設定しながら、それに向けて今ご提案いただいた様々な施策を組み合わせ合わせて一緒になって取り組んでいくという活動をしていただければ、より良いのではないかとというのが私の意見でございます。</p> <p>以上です。</p>
関座長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>今の委員の意見に関して、東京都さんから何かあれば。</p>
藤井課長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>まさに、ご指摘ご意見のとおりだと思います。なかなか行政主体でやるこういう PR イベントというのが、一般論として、一過性であったり、打ち上げ花火に終わるといったケースも多くございますので、やはり今、江口委員が仰られたような、しっかりと目標設定をした中で、もちろん生産者からしっかりと売れる魚を作っていくような取り組みを進めていければと考えております。</p>
関座長	<p>ご意見ありがとうございました。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p>

長谷委員	<p>そのほか、委員さんいかがでしょうか。</p>
関座長	<p>はい。</p>
長谷委員	<p>はい、長谷委員さん。</p> <p>はい、ご説明ありがとうございました。</p> <p>私も、これまでの我々の意見を上手に、まとめていただいたなと思いましたが、共通する話として、右側のところで、着実に推進する、速やかに施策に反映する、中長期的に検討と三段階ありますね。役所的な言葉遣いですが、中期というのが何年なのか、長期というのが何年なのかという、イメージにもよると思います。いずれにしても、中長期的に検討というところに整理された項目については、来年度すぐ何か予算をとって箱モノができるのか、そういうことではないという意味であって、しかし、5年も10年も先がゴールというような話ではないと思っております。私が意見を言った中の陸上養殖の話でも、ブルーカーボンの話でも洋上風力の話でも、基礎的な検討というのは今からでもやっていたらいけない話だと思えます。そういう認識を持っておられると思いますけれども、一応確認させていただきたいというのが一つ。</p> <p>それから、2枚目のところで、キンメダイの話が出てきました。右側の欄へ行くと、キンメの許可制導入等国に要望というのが出口になっているのですが、これは藤井課長が言われたように、TACの導入を念頭に置いて、これからは漁業が継続的にできるようにということを考えたときに、知事許可漁業は、東京都だけがやっていたのでは効果が期待できない、関係県が全部そろってその体制に持っていくということが前提にあるものだから「国に要望」という書き方だけになっているのだけれども、東京都は一番の重要な漁場を持っておられるわけだから、要望して、一方で都の主体性として、関係県への働きかけだとかいうようなことをしっかりしていただきたいなというお願いというか、ことを期待しております。</p> <p>それから、同じところで、栽培漁業センターの機能強化の話がありました。藤井課長のご説明の中で、意識しておられるなどは思いましたが、海が変わってきたので、栽培漁業だけでいいのかというお話をしました。基本構想も今年度策定されるわけですが、栽培センターの目的、組織の目的とか言うところが、栽培漁業のためのセンターになっているとすると、養殖用種苗の提供というのがその目的に読めないとか、そんな話があるのではないかと思いますので、今年度の基本構想などで、ネックになって</p>

	<p>いるのだとすれば、こういう機会に交通整理をされて、放流だけでなく養殖用種苗の提供みたいなことで、本来の漁業振興、水産振興をすればいい話なものですから、そういう整理をこの機会にしっかりとさせていただいたらいいのではないかなという感想を持ちました。</p>
座 長	<p>以上です。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>いくつか質問的なこともあったので、東京都さん、お願いします。</p>
藤井課長	<p>はい、それでは3点のご指摘、ご質問についてお答えをしたいと思います。</p> <p>まず、中長期的の考え方でございますが、よく役所で検討というと何も検討しないということにとられるんですが、当然に先ほど一番最初に申し上げました、これから都として1年ないしは3年の計画にまとめていくという中で、中長期的に検討の中の項目についてもしっかりと検討して、検討の結果によってはできないというような検討結果になるケースも考えられますけれども、そういったことも含めて、しっかりと中で検討いたしまして、できましたら実現に向けて取り組みを進めていきたいと考えております。これ決して塩漬けということではなくて、しっかりと検討していくという認識でありますので、その点をご了解をいただければと思っております。</p> <p>また、次のキンメダイの許可制の導入についてでございますが、長谷委員からのご指摘の通り、なかなか東京都だけでは効果が出るものではないということ、ということで国への働きかけなども記載をするところでございます。けれども、こういった中で、やはり東京、特に伊豆諸島については、自県の漁業者だけではなくて、多くの他県から入会の漁場になっているということで、他県とは若干、同じキンメダイの資源管理を進めていくという中で状況が違ってきております。そういう意味では、かなり危機感も持っておりますし、都として主体的にキンメダイの資源管理を進めていかなければいけないという認識でおりますので、ご指摘の、国にお願いをしておしまいということではなくて、都として主体性を持った取り組みを進めていきたいと思っております。ただ、非常に、ご案内の通り、漁業調整は難しい問題もございますので、これからしっかりと漁業者のコンセンサスを丁寧を得ていく作業をしたいと思っております。それから、最後の栽培漁業センターの、特に養殖用の種苗提供というところでございますが、ご指摘の通り現状の規定上からは今は養殖用に提供できないということになっておりますので、これから検討をしていきます基本計画等の中で、養殖用種苗への展開、利活用といったようなところにつきましても検討をしていきまして、必要と</p>

	<p>あらば規則の改正といったようなところも視野に、これから検討を進めてまいりたいと思います。</p>
<p>長谷委員</p>	<p>はい、わかりました。よろしくご検討を進めていただきたいと思います。</p>
<p>座 長</p>	<p>はい、ありがとうございました。 そうしましたら、ほかの皆さんもぜひご意見お願いしたいと思います。</p>
<p>山本委員</p>	<p>では私から、何点かご質問させていただきます。</p>
<p>座 長</p>	<p>はい、お願いします。</p>
<p>山本委員</p>	<p>この資料に書いてあることを実現するために、予算をつけてという話だと思いますが、どうやってやるかというのがすごく重要になってくると思います。恐らく漁業者との接点は島しょセンター、栽培漁業センター等で接点があり、いい関係構築もできていて進められていることだと思いますが、第三者の全く違う視点のプレイヤーが入って議論していくということも、重要ではないかと思っております。例えば、他地域の様子等がわかっている人がいると、当たり前だこの地域で思っていたことが実は全く当り前じゃなかった、ということがよく起こります。私たち、長谷川委員も一緒に復興支援をやっていたのですが、よそ者若者馬鹿者って言われるのですが、結局、固定観念に縛られない人材がプレイヤーの中に入り、関係構築を行いつつ漁業者の意見を聞いたり、あるいは栽培漁業センターの意見を聞くなりして進めていくということがすごく大事、大切なのではないかなと思います。一つ事例を申し上げますと、ある県で、水産振興センターと議論する機会があるのですが、漁業を中心に操業していて、養殖というものに興味はあるのだけれどやったことがないところに、民間プレイヤーが来てこれが良いですよっていう意見に基づいて、予算取ったら失敗してしまったという失敗の歴史が何年も続いているというのはよくある話です。そういう意味でも目利きをする組織、この委員会がどうなるかわからないですけども、する方がいて、一企業の提案にのるということではなくて、その技術が本当に客観的に見て、どういう優位性を持っていて、どういう実績があるのかというところを評価するようなプレイヤーがいることも、必要ではないかと考えます。つまり、漁業者と行政との接点だけではなかなか進まないことも客観的に全く別のプレイヤーが入る、その辺の目利きができる人材というか組織、体制があると進んでいくのではないかと思います。どうやって進めていくかということもぜひご検討いただけるとよろしいかなと思います。</p> <p>ざっくりとした意見でしたがよろしくお願ひいたします。</p>

<p>関座長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>重要なところだと思いますね、非常に。どうやってという、それがないと具体化していかないと思いました。</p> <p>はい、そうしましたら、長谷川委員さんよろしいでしょうか。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>委員の皆さんの意見もお聞きしたいのですが、今回すごくきれいにまとめていただいたのですけれど、前にもお伝えしたと思いますが、東京都の水産らしさはどこにあるのか。もちろん、広くやらなければいけないというご都合もあるとは思いますが、変な話これがぽとっとどこかに落ちていて誰かが拾って、ああこれはどこかの水産のプランだなどは思うでしょうが、東京都だと気づくかどうかというと、わかりません。東京都らしさをどこに置くのか、または置かないのか、知りたいなと思ってまして、ミッション、ビジョンなのかエッジなのかわかりませんが、一点、聞きたいなと思いました。</p> <p>もう一点は、今回、皆様の素晴らしいご意見はあったものの、もともと考えていたものと、意見からこれは確かにというものが、あると思います。きれいにまとめていただくとそういうテンションもわからないので、それはどの部分なのか、お聞きしたい。これは確かにということは、それまで考えてなかったり、ひょっとしたらアイデアが足りなかったものをこのチームで、意見を出したことで影響があるのかなと思うし、それだったら、もっとそれをこう尖らしたり、深堀したりということもできるのではないかと思うので、その辺がお聞きできるといいなと思いました。</p> <p>また、皆さんもおしゃってましたが、これ全部、きれいに書いていただいているけど、本当に全部やるのって疑問に思いながら会議に参加したり、その年度を終えたりしているのので、言える範囲でいいのですけれど、お聞き出来たら、今後の提案の流れも作れるかと思った次第です。</p> <p>答えられる範囲でいいのですが。</p>
<p>藤井課長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>まさにそういったところが、課題だと考えておまして、この資料では、具体的な取り組みの方向性としては、ある意味総花的な、全部を網羅したような書きぶりとなっております。では具体的に、先ほど長谷川委員が仰られたように、東京らしさを出していくかとか、東京の優位性をこう発揮していくかというのは非常に難しいといえますか、我々としてもそこをどうしていけばいいのかというのが、今正直なところ考えをめぐねているところで</p>



	<p>す。そのような部分についても、ぜひ長谷川委員を中心に皆さんのご意見なども頂戴したいということで、今回、ニュートラルな形での提案をさせていただいております。これまでいろいろと全国的にも取り組み、特に後継者育成などやってこられている歴史、経緯がございますし、その中で成功している事例、あるいはそうでない事例なども多々あると思いますので、ぜひこちらといたしましては、そういう部分について、ぜひ東京の特徴を生かしたこういう PR をやっていったらいいのではないかと、具体的に事業を実施するに先立って、事業に当たって、ご意見を頂戴したいなということで、今回あえてフラットな書き方をしているとご理解をいただければと思います。さらに踏み込んでこの委員会の場合、もしくは委員会外の場合でも結構ですので、ご意見をいただくことができると考えておりました。</p>
長谷川委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>個人的にでもいいのですが、これは、この場の皆さんの話が、これは確かにみたいなの、やってみたいなっていうことが、あるのでしょうか。</p>
藤井課長	<p>なかなか情報発信一つとっても、よくお役所的にはホームページとか言っていますけれども、今の若い方はホームページを見られる方はいらっしゃらないので、そういった中で、若い方にこう刺さる情報発信といったようなものを、我々も勉強していかなければいけないと思いますし、そういうことは、やはり長谷川委員にはぜひお聞きしたい部分だと思っております、そこが一つずつ動いてくれば、糸口がこう広がっていくのではないかと考えています。</p>
長谷川委員	<p>ありがとうございます。はい、そうですね。</p>
関座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>私からも少し、質問というか意見も述べさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>私は主に担い手育成で意見を出させていただいたのですが、例えばこの担い手育成についていろいろな取り組みをしていったときに、やっていくにつれて、担い手と言ってもいろんな人が出てくると思います。可能性としては、その担い手自体が若い人かもしれないし、ある程度仕事を終えた人かもしれないし、女性かもしれないし、いろいろなバラエティーが出てくると思うんですね。そういう時に、それに柔軟に対応できるゆとり、余裕がある取り組みの計画というのが必要だなと思ったことと、ある程度いろいろな人が来るだろうという予測をして対応策を考えていくとか、その予測というのが希望的な予測を含めて、広くとらえていくことが特に担い手育成には必</p>

	<p>要なのではないかと思いました。</p> <p>それから東京フィッシャーズナビですけれども、現段階で相談件数とかどういう内容が来ているのかというのはわからないのですが、例えばこんなことでも相談してもいいんだよってというのがわかるような、それは本当に来た相談事だけでは網羅できないかもしれないですが、そこにこういうシステムがあって、気軽に問い合わせできるんだよとか、そういうことがもう少し広まっていくといいのかなと思いました。あまりかっちりした形にすると、こういうことでもいいんだよっていう雰囲気を作りづらい部分もあると思ったので、楽しくみんなが集まってくるような要素があってもいいのではと思いました。</p> <p>すみません、以上です。</p>
江口委員	<p>先ほど山本委員のお話をお聞きしていて、分野が違っても、皆さんおっしゃっていることには共通点あって、生産者さんがやる気をだしてやらないと、やっていただかないといけないのですが、それに対していろいろな持ち場の人と一緒に、汗をかいてサポートしていく取り組みというのが必要だというのは、この委員方々の各分野で共通している事項ではないかというのと思いました。</p> <p>いろいろな方を活用できるような環境だったり、コーディネートしたり音頭をとったり、幹事のような形でやれるのが、行政の方のポジションだと思います。</p>
長谷川委員	<p>確かに、魚の種類とか量は地方の方がいいでしょうし、そうすると、自分も何回か前にお話したと思うのですが、東京の武器は、人とお金もいろいろな意味でいっぱいあるのしょうから、それを使って、東京の水産をよくするのはもちろん、それが波及して全国の漁業とか産地とか海とかがよくなるというのを、先陣切ってもらえるとすごくいいですね。事業としてどう作っていくのかというのは難しいかもしれないですけど。間違いなく東京都の武器になると思います。</p>
江口委員	<p>ものすごく恵まれています。地方がうらやむほど、東京はたくさんいらっしゃいますから、立派な資源ですね、人も。</p>
関座長	<p>そういうすごい資源がある一方で、技術とか人の力みたいなのが、東京の生産と結びついてないようなところをすごく感じますね。だからそこが結びつくとうちの生産地も変わってくるのではないかなと感じました。</p>
長谷川委員	<p>そうですね、そう思います。</p>

	<p>ただ東京の生産地は、島ですよ、東京は東京なのですけど、地域というか。</p>
江口委員	<p>地域といえば地域ですよ。</p>
関座長	<p>離島であってそこは東京なんだっていうのは特色ですよ。</p>
江口委員	<p>そうですね。おっしゃる通りですね。</p>
長谷川委員	<p>やはり、最先端事例を作ってしまうというのが、いいのでしょうか。一事例、強烈にみんなで集中して一事例、すごい誰もまねできないようなものを作ると東京らしいのかもしれない。</p>
関座長	<p>そうですね。</p>
長谷川委員	<p>DX もそうですね。結局は DX 系の会社とか入って、東京にしかないと言っても過言じゃないぐらい集中していますから。</p>
関座長	<p>そうですね。</p>
江口委員	<p>全部が関係していると思います。流通・ブランディングと言いながらも当然 PR もその中でどう差し込んでいくのかということもあるし、そのプロセスの中で川下から川上の流れの中で、やっぱり DX の部分もかんできたり、ものすごい連携というか。</p>
長谷川委員	<p>そうですね。</p>
江口委員	<p>言うは易しですけども。</p>
長谷川委員	<p>気軽に言うけどどうしようって感じかもしれないですね。 それはいいと思います。</p>
藤井課長	<p>人材という意味では、行政・試験研究の人材もなかなか脆弱といいますか、非常に厳しい中ではありますが、今回のご指摘などを踏まえますと、まさに我々に課されました責務というか、責任が非常に大きいのだなと思っていて、非常に感慨の至りでございますけれども、そういった責任は感じているところです。 仰るように、何か一つ全国に先駆けたトップモデルというか、何かそうい</p>

	<p>ったものを、いずれかの分野で本当に組むことができると、先陣を切ってやれるのではないか、そういう部分を是非に進めていきたいという気持ちではおるところです。</p> <p>予算等につきましては、これから査定作業等行われていきまして、ある程度方向性が見えてくるのですが、事業にしっかりと魂を込めていくという部分では、今言われたようなことも念頭に、ただ事業を回していただくだけではなくて、全国の先駆けとなるような仕組みづくりというのを、これから事業を進めていく中で、しっかりと詰めていく必要があると考えておりまして、この場でなかなかこうしたいとか、こうすべきだというのは明言難しい部分ではありますが、そういう視点は持ちながらしっかりと取り組みを進めていく必要があると考えております。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ちなみに、長谷さんに伺っても答えにくいかもしれませんが、都は、ある意味国と一番近いところにいらっしゃる行政だと思います、物理的にも近いですし。水産庁と東京都が、言うだけじゃなくて一緒になにかをしていくというのは、近いからこそというのは期待される部分でもあるのですか。あまり関係ないですか、距離が近いというのは。</p>
<p>長谷委員</p>	<p>私がいたときには、例えば外国との絡みが出てくる県とか地域とか、そういうところの方が、むしろ色々仕事の上での関係というのが出てくるのではないか。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>なるほど。</p>
<p>長谷委員</p>	<p>国として求められる役割としてなんですけれど、長谷川さんが言われるように、近いっていえば近い仲ですから、私の関心事項としては、先ほども言いましたが、キンメダイの資源管理では、東京都の漁場がかなり重要な水域で、東京都だからこそという資源だと思います。主体性を発揮していただいて、物理的に近いのですから、国ともよく連携して、リーダーシップを発揮して、資源管理の事例を作っていただきたいなと期待しています。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>最近、海業という言葉が、再び出てきている感じがあって、観光とか、教育とかいろいろあると思うのですが、なんとなくのイメージですけど、縦割り行政、農林水産省があり、国土交通省もあり、環境省もあっていったところが壊れていくと、本当にみんなで生産性高く、海のためとか漁業のためにできるのではないだろうか、海洋庁とか誰かが思い付きで言ったりしていましたが、海業とか環境系に関する研究とかを、国などを巻き込んで、東</p>

<p>藤井課長</p>	<p>京都でやっていくというのもありかと思うのですが、海業系は、今回の水産業のテーマとは違うのですか。</p> <p>非常に重要なテーマだと思っております、よくよく足元を見てみますと、特に島の方というのは当然に漁業というのは重要な産業ですけれども、皆さん漁業だけではなくて、これまでも民宿を併用したりとか、農業と併用したりとかすることで、様々な生業の中で漁業もやっています。海業という言葉が出たのは最近ですけど、島の方はいろいろな地元の資源を活用しながら、特に海の資源などを活用しながら、取り組みをやってきた経緯もありますので、そういうことをしっかりと再評価していくことも重要ではないかと、これ個人的な考えですけれども考えております。海業という視点、これから特に重要になってくるとは思いますけれども、やはり東京、特に島しょ地域においては従来からそういった海の漁業資源だけではなくて、海を活用した生業を立ててきたっていう歴史的なものをしっかりと再評価し、発信していくべきではないかなと考えております。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>なるほど。こういう体験とか学習とか研究とかにおいてもたぶんどこよりも人をたくさん抱えていらっしゃる都なので。ありがとうございます。</p>
<p>長谷委員</p>	<p>洋上風力の話なんかは縦割りを打破しなくても同じ産業労働局の中の話、ぜひ意思疎通よく進めていただけたらと思います。</p>
<p>藤井課長</p>	<p>洋上風力、特に大島では、行政の垣根を越えて、各分野でご意見とか質問をかわして進めております。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>すばらしい、そうですか。</p>
<p>山本委員</p>	<p>洋上風力は、再来年以降、さらにその先が現実的で、そこから採択されて、今スピード重視になったとはいえ、それでも4年、5年後の稼働、三菱商事なんかは8年後の稼働とか言っていますが、結構長いスパンでやっていく事業になります。そうはいつでも入札され、事業者が決定するとある程度その活動はできるのではないかと考えていて、基金の活用という、継続的に使えるお金があって、産業活性のために活用できるというのはすごく魅力的だと思っています。毎年そういうお金が付けば、東京都の税を使わなくても、その事業者からの基金捻出という形になるので、そうしてくるとすごく魅力的ではあると思います。ただ期間が長いので、もしできても私はこの社会人やってないかもしれません、わからないですけれども。そういう中長期的な視点も重要なかなと思います。</p>

長谷委員	<p>まさに、中長期的課題です。ただその入り口のところの漁業との関係の調整というところがすごく大事で、そこで引っかかる例が多いので、まさに局内でよく意思疎通してスタートするっていうのが結構肝なんだと思うんですよ。頑張ってください。</p>
藤井課長	<p>特に大島に関して、聞きかじった情報ですけども、かなり漁業者の方の漁場利用に関する警戒というか、懸念というかがあった中で、今回は地元の漁業者の方も、まずは調査に協力をしていこうというような機運もできてきているということで、そういった意味では、こういった取り組みが駒が進んだのかなと承知をしております。</p>
長谷委員	<p>どこまで沖合展開するかにもよりますが、地元の漁業者には目が行きますが、都以外で周辺に来ている漁業者への目配りがどうしても弱くなって、そこでトラブルが起きがちです。そういうところもぜひ気を付けてやっていたらいいと思います。</p>
関委員	<p>今こういう段階にいるのですよというような、その先が見えるように、説明をしないと、理解はなかなか得られないと思います。</p> <p>確かにそうですね、いろんな県が入り合っている漁場では、難しいですね、その来る人たちに対してどういう説明をするのかとか、長谷委員はどうしていらっしゃるんですか。</p>
長谷委員	<p>そこで影響を受ける関係漁業者って言っていますが、関係漁業者を特定するのが本当に肝で、地元の漁民だけの理解が得られたからと言って走ろうとすると、ストップがかかるということですね。</p>
中野所長（島セ）	<p>大島の状況ですが、大島の中で関係のいろいろなセクション、組合が二つありますので、二人の組合長入れて、調査をするに向けた打ち合わせですとかを始めています。その情報については、東京はもちろんですけど、近県の神奈川県ですとか、千葉県漁連に流しましてそこから各漁協に情報を流すように、そのような体制をとっているようです。</p>
長谷委員	<p>近県だけじゃなくて、九州方面からも来ますね。</p>
長谷川委員	<p>そうなんですか。</p>
長谷委員	<p>そうなんです。</p>

	<p>そういうところを忘れずにやらないと。</p>
山本委員	<p>五島での評価では、魚礁になり生態系は改善するという報告が出ていると思いますが、海の中に設置することに対する抵抗なのですか。</p>
長谷委員	<p>やはり、相性のいい漁業と漁法があるんですね。どんな漁法でも今盛んに使っている場所に建てると言ったら、それは誰でも反発するのですけれど、そこをうまく避けつつ、磯の資源だとか、その磯の資源で例えば潜水して獲りますとか固定式の刺し網で操業しますということであれば、五島でも明らかになっているように魚礁効果と相まってメリットが引き出せるのですが、例えば底引き網とか巻き網だと、広い漁場で漁具を運用してやるものなので、なかなか共存が簡単ではありません。そこを地元の磯根の人たちだけでやりますと言って進めても、後から反発が出るというようなことがよくあります。</p>
山本委員	<p>なるほど。</p>
長谷委員	<p>ただ、前回もお話ししましたが、全漁連の会長になった坂本さん、銚子がフロントランナーでこの問題に取り組んでいます。魚礁を整備し、また藻場造成を組み合わせて、ブルーカーボンのメリットを引き出そうと、前向きにうまく場所の調整をしたうえで、そういう取り組みをしようとしています。それが既存の漁業者のためにもなるし、時代の課題にも取り組んでいる姿というのが、新規就業につながったり、若い人のそういうものに取り組んでみようかという意欲につながると、すごく前向きな話でいいなと思っています。</p>
関座長	<p>そうですね、ぜひそういうモデルができるといいなと思います。 はい、ありがとうございます。 ほかにはいかがでしょうか、何か、言い足りないところがあればぜひこの機会にご発言をどうぞ。</p>
長谷川委員	<p>大丈夫そうです。</p>
関座長	<p>ありがとうございます。 そうしましたら、今日は意見が出尽くしたということで、事務局では、今回の意見をプラスする部分はプラスして反映して、資料の作成という段階になるとと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。 それでは、事務局にお返ししたいと思います。</p>

<p>藤井課長</p>	<p>後ほど事務局から今後の予定等についてご連絡いたしますが、今回こちらでまとめた内容について、かなり踏み込んだご提言、あるいは事務局に対する課題といいますか宿題というものを多くいただいております。長谷川委員からありました東京らしさみたいなどころとか、全国的な先駆けとなるような取り組みとか、またそういったことに対する我々がコーディネート機能を果たしていくといったようなところ、非常にご指摘ももっともですが難しい部分でございます。ただやはりそういったことをやっていかなければなかなか、これからの東京の水産業についての将来が開けないと思っておりますので、いただいたご意見に対してどういったことができるのかということを実際に考えてまいりたいと思っております。</p> <p>蛇足でございますけれども、特に担い手育成に関しましては、都としても取り組みを一生懸命やっているところですが、特に東京都が取り組みを進めていく前から、小笠原島であるとか、噴火後帰島された三宅島、こういったところでは地域が一体となって取り組みを進めることによって、かなり外部からの方を多く受け入れ、若い方の定着が促進されているという状況があります。特に小笠原島では、ある程度5～6年で船をもって年収一千万以上稼げるといったような状況もございまして、本来であればそういうこともしっかりと都として発信をしていく必要があるのかなと思われました。我々はそれが当たり前みたいな感じになっているところもあるので、そういったところもしっかりと評価して東京らしさ、東京ならではのようなどころもしっかりと打ち出せるようなことを考えていければという風に考えております。</p>
<p>小口課長代理</p>	<p>では、事務局から次回のご案内になります。来年2月に第3回の懇談会を開催する予定です。今度はきっちり日程を詰め、ご迷惑をかけないように気を付けます。先ほどから説明しておりますが、次回には、本日のご議論を反映した都としての今後の方向性についてご説明できればと考えております。</p> <p>本日は委員の皆様におかれましては、長時間にわたり大変お疲れさまでした。特に関座長、ウェブでの議事進行お疲れさまでした。ありがとうございました。これを持ちまして東京の水産業振興に向けた専門懇談会第2回を閉会したいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>〈閉 会〉</p>